

## 平成 16 年度学校経営計画（全日制）

## 1 学校の現況

学校番号	86	学校名	県立下館第一高等学校						課程	全日制普通科				学校長名	山内洋行			
教頭名	高橋好文（全日制）										事務室長名	谷口俊秀						
教職員数	教諭	46	養護教諭	1	常勤講師	4	非常勤講師	2	実習教諭 実習助手	実習講師	2	事務職員	3	技術職員等	2	計	62	
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数						
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女							
	普通科	124	157	137	144	171	148			432	449	22						
	科																	

## 2 目指す学校像

<p>(1) 教育方針 豊かな人間性を培い、深い知性とたくましい心身を養うとともに、自主自立の精神を涵養し、社会の発展に貢献しうる人材を育成する。 確かな学力の定着に努める。 生徒指導の充実に努める。 進路指導の適正強化に努める。</p> <p>(2) 努力目標 ・授業内容の充実に努める。 ・生徒の実態に即する適切な学習指導方法の工夫改善を図る。 ・自主的、効果的な学習の充実に努める。 ・心の教育を充実し、規範意識の向上を推進する。 ・特別活動を通して協調精神を養成する。 ・健康・安全教育、特に交通安全教育を推進する。 ・適性・能力等、個々の生徒の実態に応じる進路指導を展開する。 ・地域の進学校として、生徒一人一人の進路希望の実現を目指す。 ・適切な職業観の確立を目指す。</p> <p>(3) 各学年の標語 1年 「意欲」      2年 「継続」      3年 「集中」</p>
--

## 3 現状分析と課題

項目	現状分析	課題
教科指導	生徒の学習意欲は十分であるが、実態として家庭学習時間が平均1時間と少ない。困難な教科に力いっぱい取り組む意欲が不十分である。	自学自習の習慣を確立する。不得意教科を作らぬよう得意教科を伸ばす指導を充実する。
生徒指導	歩く姿勢、机に向かう姿勢にやや生気が欠けており、服装、マナーが十分でない。基本的な生活習慣の確立が不十分である。	あいさつの励行、規律ある生活の確立と規範意識の高揚を推進する。
進路指導	ほぼ全員が大学進学希望者である。持てる力に満足してしまう安易さがある。	困難を克服し、進学希望を100%実現する。
特別活動	ホームルームの活動内容、文化祭の発表内容などやや不十分であり、部活動もやや活気に欠ける。	生徒会を中心とする自主的な取り組みを推進する。部加入率を70%にする。

## 4 中期的目標

- 1 生徒自らの意欲的な学習を促すために、進路に応じた教育課程を編成し、教科指導に関する研修を充実し、授業内容の改善を図る。
- 2 心の教育の充実を図るために、ボランティア研修・活動を行いながら、人権教育や道徳教育の充実を図る。
- 3 大学合格率100%を目指し、個別面談や進路ガイダンスなど、きめ細かな進路指導体制の確立を図る。
- 4 人間関係を円滑にし、生徒が生き生きとした学校生活を送れるよう、文化祭、体育祭、修学旅行などの学校行事の充実を図る。

## 5 年次ごとの重点目標

年次	重点目標	具体的目標	達成状況
1年次	個々の生徒の学力の実態に応じたきめ細かな学習指導の実施	国語、数学、英語の系統的学習の実施とともに、各教科においてシラバスを作成するなど教科指導の改善・充実を図る。	
	規範意識に目覚めるよう、人権尊重の精神の涵養を図る取り組みの実施	全クラスにおいて、ボランティア活動等の体験活動に取り組むことやHR指導資料を活用したHRの充実を図り、基本的生活習慣の確立を意識づける。	
	3年間を見通した計画的な進路指導の実施	個別面談の充実や進路ガイダンスの充実、進路指導資料「進路の手引き」の内容の見直しを行うとともに、十分に活用する。	
	学校行事に全教職員があたるなど、特別活動の充実	新入生歓迎体育大会や文化祭の企画・運営を生徒中心にするなど、生徒の自主性を尊重した学校行事を実施する。	
2年次	家庭学習の工夫に基づく、系統的な学習指導の推進	各教科のシラバスの総点検を行い、家庭学習の一層の充実を図る。授業を公開することにより教師の研修を充実させる。	
	規範意識の深化と思いやりの心を養う取り組みの実施	各月のマナーアップ推進事業の徹底と、講演会やHRを通し、また、社会人との交流により、たくましい心を培う。	
	自らの進路に合うコースの決定と職業についての幅広い情報の収集	インターネットを利用した情報収集と進路適性発見のためのHR指導、面談指導を充実する。	
	生徒会を中心とする自立した特別活動とともに部活動の充実	生徒会本部、各種委員会、各部の連携を図るために顧問の指導のもと定期的に情報交換会を行う。修学旅行の内容を一層充実する。	
3年次	学習時間の絶対量の増大とその深化を支援する学習指導の実施	授業と家庭学習の連携を図り、ムラのないバランスのとれた学習力を獲得し、国公立大の入試に対応できる実力をつける。	
	有為な社会人となる基本的規範意識の確立と心豊かな人間性の養成	自分の置かれている場（家庭、学校、社会）について再認識し、存在の尊さ（かけがえのない命）についてHR討論を実施する。	
	進路指導のゴールとしての希望大学全員入学と職業観の確立	入試方法の情報収集に努め、3年間の学習歴をふりかえり、学習意欲を高め、学年全体として進路指導の完成を目指す。	
	学校行事に教職員と生徒が共にあたる協働精神の養成の徹底	精選された学校行事に全力を尽くすために、一層きめ細かな計画を立て、クラス、学年での協力体制を整える。	